

令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和6年12月18日

山 梨 県

病害虫名：チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou&Lu,1977)

作物名：モモ、スモモ、オウトウ、ブルーベリー、カンキツ、ブドウ他多数の樹木

1 発生の経過

令和6年6月から11月にかけて、県内各地のモモやブドウ、庭木において、ハゴロモ類の成虫・幼虫および枝への産卵が確認された。成虫を採取し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。

2 分布と国内発生状況

本種は中国原産で、海外では韓国、トルコ、フランス、ドイツ、イタリアなどに分布を拡大している。

国内では、平成29年に大阪府で確認されて以降、神奈川県、千葉県、東京都、石川県、岡山県、徳島県、埼玉県、福岡県などで発生が報告されており、チャ、ナシ、ブルーベリー、カンキツ、カキ、宿根アスター等に確認された。

3 形態的特徴及び生態

(1) 形態

幼虫は白色で、腹部背面に白い糸状の蠟物質の毛束を有し、背面上部には小黒点がある(写真1)。外部から刺激されると飛び跳ねる。成虫の体長は7~10mm程度、前翅長14mm程度で前翅は茶褐色から鉄さび色であり、前翅前縁中央部に三角形の白斑がある(写真2、3)。産卵痕は白色で毛状の蠟物質で覆われている(写真4、5)。

(2) 生態

広食性であり、カバノキ科、クワ科、ブナ科、マメ科、モクセイ科等の様々な植物を寄主として利用することが知られている。成虫・幼虫ともに新梢を吸汁し(写真6)、寄主の枝に産卵する。日本国内で何世代発生するかなど生態は不明な点が多い。

4 被害の特徴

- (1) 成虫及び幼虫が枝を吸汁し、発生が多いと排泄物によるすす病が発生する。
- (2) 成虫は枝に卵を産み付け、枝の組織を損傷するため、植物体を衰弱させる。
- (3) 直径10mm以下の細い枝に産卵するため、細枝が枯れたり、折れることもある。

5 防除対策

- (1) 令和6年12月現在、本虫を対象とした登録農薬はない。
- (2) 産卵された枝は切除して土中深く埋めるか、焼却するなど適切に処分する。
- (3) 本種は樹木類に産卵することが確認されているので、庭木などもよく観察し、上記(2)のとおり適切に処分する。



写真1：幼虫



写真2：成虫



写真3：成虫



写真4：産卵部（蠟物質で覆われる）



写真5：枝内部に産卵された卵



写真6：モモの苗木に群がる成虫と幼虫